

千代田区男女共同参画センター情報誌

MIW通信

24

2009



MIW開設10周年記念事業のご紹介

記念講演会・対談「わたしたちが幸せになる共生のカたち」
パープルリボン・プロジェクト・フェスティバル
パープルリボン・プロジェクト「ラン&ウォーク」
記念感謝祭「MIWで仲間と出会う夜」

2008年11月3日、暴力のない世界をアピールするパープルリボン・プロジェクトのイベント「ラン&ウォーク」。パープルリボンをモチーフにしたTシャツを身につけ、皇居の周りを歩いたり、走ったり。最後にパープルリボン結びました。

「MIW」は千代田区男女共同参画センターの愛称です。MはMan(男性)、IはIntercommunication(情報や意見の交換)、WはWoman(女性)という意味です。男性と女性の間には、いつもI(自分らしさ)と愛(思いやり)をもって、対等な新しいパートナーシップを創造してほしいと願っています。

MIW 開設 10 周年
記念講演会

わたしたちが 幸せになる 共生のカタチ

開設10周年おめでとうございます。短い時間ですが、「共生」について考える入口を少しでも広げ、開けることができたら嬉しく思います。

私のこの髪型は長い間「怒髪パーマ」と呼ばれ、自らも呼んできました。今の社会、時代、世界を見てみると、どうしても怒りが込み上げてきてしまう。ずっと怒り続けることはイヤだけど、今の社会、高齢者と若い人が共に生きられませんか？ 生まれてきて、長生きして良かったと思える社会に本当になっていきますか？

私たちは、どの国のどの家族のもとに生まれるか、選ぶことはできません。どの国に、社会に、どの地域に生まれるかは自分で選べない。ある地

区に生まれたために、あるいは、セクシュアリティそのもので差別をされている人たちも今もつて大勢います。

どうして私たちの社会は、今ここに「共生」というテーマで集まりながら、「共生」とは反対の「分断」の時代を迎えてしまったのか。なぜ、どこで、何が、欠けてしまったのでしょうか。

母からの宝物の言葉

死者との共生をまず考えてみましょう。一昨年の夏、私は母を見送りました。愛してました。大好きでした。尊敬してました。彼女との関わりについては、『母に歌う子守唄』（朝日新聞出版刊）という本の中に書きました。

共に生きることとは
同じ重さで
この世に存在し、
同じ思いを持って
互いの人生を見つめ合うこと



落合恵子さん 作家・東京家政大学特任教授。1945年生まれ。執筆と並行して、東京、大阪に子どもの本の専門店「クレヨンハウス」、女性の本の専門店「ミズ・クレヨンハウス」などを主宰。月刊『クーヨン』発行人。主な著書に『母に歌う子守唄 わたしの介護日誌』（朝日新聞出版）、『崖っぷちに立つあなたへ』（岩波書店）ほか多数。

私が「共生」ということを考えた時、あるいは「血縁」と「結縁」を考えた時に、私の中でエンドレステープのように回る言葉があります。

1945年、敗戦の年に母は私を出産しました。その時彼女は、結婚をしていませんでした。彼女がいかにも真剣に生き、私の父に当たる人をいかに愛したとしても、彼女の現実には周囲から「不道徳」と呼ばれたかもしれません。

15歳の時に私は母に聞きました

「あなた、なぜあえて険しい道を選んだのですか？」母は答えました「お母さんはあなたのことが欲しかった。お母さんとお父さんの二人の二つの大好きが出会って、お腹にあなたがいると思った時、どんなに反対されても産むと決めた。そして、共にだけ、それぞれ別々の人生と一緒に生きていこうってお腹のあなたに言った。だから、あなたは待たれて、歓迎されて産まれた子どもなのよ。」

基調講演 落合恵子さん

千代田区男女共同参画センターMIW（ミュー）は、昨年の10月1日で、開設10周年を迎えました。これを記念して、4つのイベント①記念講演会・対談②パープルリボンキルト・フェスティバル③パープルリボン・プロジェクト「ラン&ウォーク」④記念感謝祭「MIWで仲間と出会う夜」を開催しました。多くの方々に支えられての10年間でした。これまでのご支援への感謝を申し上げるとともに、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



記念講演会には200人を超える方々がお集まりくださいました。落合さんの講演、山田さんとの対談、ミニコンサートと盛りだくさんの催しでした。



ファザーリング・ジャパンのにしむらなおとさん（左）安藤哲也さん（右）

日時■2008年10月1日（水）18:30～21:00
会場■共立女子大学3号館610教室
参加者数■計241人（女性197人 男性44人）
基調講演■落合恵子さん（作家・東京家政大学特任教授）
対談■落合恵子さん・山田正人さん（独立行政法人経済産業研究所総務副ディレクター）
ミニコンサート■にしむらなおとさん&安藤哲也さん（NPO法人ファザーリング・ジャパン）

【協賛】岩波ホール、株式会社大塚商会、キハラ株式会社、株式会社ジャパンビバレッジ、千代田区社会福祉協議会、東洋美術印刷株式会社、THE BODY SHOP、日東リビング株式会社（敬称略・順不同）

私の宝物でもある言葉です。悩み苦しむ七転八倒した結果、一人の人間が、今はこれしかないを選びとった一つの答えに對して、優劣をつけた、いいとか悪いとか言う権利が誰にあるのかを、母の人生を通して、私は学びました。同時にこうも言えます。彼女が私にくれた言葉を、私は次の世代にプレゼントしたいと。「生まれてきてくれてありがとう」——今、この社会を見ると、なかなか言えないけれど、大人の私たちは、「共生」は一心同体になることではなく、共にここにあること。どっちが上、どっちが下ではなくて、共にそれぞれに生きていくこと。それが大切なことだと伝えたいと思います。

思い返すと、母は、私の頭のでっぺんからつま先まで丸ごと受け入れて「子守唄」を歌ってくれていた。そして、介護が始まってからは、私が彼女の頭のでっぺんからつま先まで丸ごと、あるがままを受け入れてきた。それが私にとつての母への「子守唄」だった。「共生」＝共に生きるということだったかもしれない。介護を必要とするようになって7年間、大きな波が母の小さな身体を飲み込みそうになるたびに、母は見事に自力で乗り越えてきてくれた。「お母さんはここにいますよ」と、母は存在そのもので私に囁き続けてくれた。

最後の朝、母に私は言いました。「お母さんありがとう」『お母さん愛してるよ』って。世の中の多数派と違う生き方をしてきた母。婚姻制度の中ではなく、私を産んだ母。彼女への差別の原因はそこにあります。差別の方が間違っているわけだけど、万感の思いを込めて聞きました。「お母さんもし良かったら、もう一度私を産むかい？」

一生懸命、母は目を開こうとした。答えようとしたんだと思う。でも、もう力が入らない。最後に口角がひゅうつと上がって、微笑の形で止まりました。身体は熱いけれど生きている証がなくなった。これが最期の瞬間でした。

共に生きるということは、同じ重さでこの世に存在し、同じ思いを持って互いの人生を見つめ合うことです。共に耳を澄まし合い、共に語り合い、共に受け入れ合うという、そこから生まれるものなのだ、と言えるかもしれません。

「共生」は、ここからスタートするものだと、私は思っています。そして、「異議あり」と手を挙げ続けることも、人間にとってとても大切なテーマです。

世の中にエリートがいるとするなら…
この二年間に、何人かのかけ

がえのない友人も見送りしました。河地和子もその一人。慶応大学の教授でした。私同様、気が強いです。まっとうに生きていくとすればするほどぶつかって、はね返されてきた。何度目かのがん再発の後、一昨年の12月27日に亡くなりました。彼女がいつも言っていた言葉があります。「今この社会にエリートというものがいるとするならば、それは闘い続けられる人のことを言うんだよね。人権に向けて。そうだと私も心から思います。」

（文責：MIW）

対談



山田正人さん（独）経済産業研究所総務副ディレクター。1967年生まれ。1991年、通商産業省（現経済産業省）入省。6歳の男女の双子と3歳の男児の父。第3子誕生を機に、経産省課長補佐在職中の2004年11月から1年間育児休業を取得。その体験を綴った『経産省の山田課長補佐、ただいま育休中』（日本経済新聞出版社）を上梓。現在は、経済産業研究所に出勤中。

仕事の仕方と 子どものいのちが 天秤にかけられている

落合 山田さんが育児休業を取ろうとしたきっかけは何でしたか？

山田 私は妻とは同じ大学を卒業して、同じ所に同期で入った仲で、当然のように仕事も家事も対等にやっていました。それが子どもが産まれると、育児は母親がやるものと当たり前のように任せてしまった。自分も育児をやるべきだろうとは思っていましたが、仕事を聖域視して、帰宅するのは夜中の1時とか2時。上の双子は当然寝てるし、妻も行き倒れたように寝ていて……。3番目の子どもが出来たとき、妻に「これじゃ、産めない」と言われて初めて、自分の仕事のやり方と子どものいのちが天秤にかかっていると気づいた。その瞬間に、絶対に僕が仕事を休んで子どもを育てなきゃなあと思ったんです。

落合 でも、そう思っても実行に移す男性はごく少ないですよ。周りの反応はどうでしたか？

山田 同僚からは、「山田は出世を諦めたのか」と質問されました。私は育児を取ることがマイナスだとは想像してい

なかったんですね。戻った時に同じ仕事をしたら同じだけ評価されるはずだ、過去に育児を取っていたかは関係ない、と。でも、日本の組織や職場は、アウトプットよりどれだけ私生活を犠牲にして組織に忠誠心を示したかが評価に関わると実感し、正直、びっくり。気づいた時にはブルーになってました。

落合 そうですか。育児体験に基づいて、社会や職場を見回した時に、「これは違うな」と思うことはありましたか？

山田 違和感を持つことが多かったですね。経済産業省の本省に戻りましたが、6時、7時になっても家庭はどこへやらと、平然とみんなが働いている。とにかく24時間働ける状態におかれているわけです。人間は職業人であると同時に、家庭人、地域の人間でもあるはずで、それらの責任をバランス良く果たさなくてはいけないのに、いびつな形になっていると思うんです。自分も以前はそうだったわけですが……。

落合 でも、人間って不思議で、一つのグループの中で一人か二人が変わると、周りにいい影響、さざ波が伝わりますよね。山田さんの周囲にプラスの影響は出てきましたか？

山田 ええ。私の職場でも私の後に男性で育児を取った人がいますし、男性が育児を理由に仕事を休むことが、それほどタブーではなくなってきた感じはあります。たとえば、男性の課長補佐が3日間連続、子どもの発熱を理由に仕事を休んだ。「育児を取った妻は、育休明けで休みにくい。だから、子どもが病気の時は全部自分が引き取っている」と。そうした人が少しずつ増えてきて、すごく私も勇気づけられます。

**妻との関係は抜本的に
よくなりました**

落合 素敵ですね。そこで、あえて意地悪な質問をしますが、「でも、あなたは優秀で、恵まれた職場にいるからできるんですよ」と言われたら、どうお答えになりますか？

山田 それはよく言われています。確かに公務員ですが、公務員で育児を取っている男性は、ほとんどいないわけです。民間企業で育児を取った男性と話すとき、「あなたは大企業だから取れたのよ」と言われると聞きます。また、中小企業勤務の男性からは「あなたは実力があるから取れたのよ」と。自分はやりたくないと思っている人は、結局、「あなたはこうだ」とレッテルを貼り、「で

も自分は違うからできない、変われない」と言っているのではないかと思います。公務員は恵まれているけど、取りやすい人から取らないと、誰も取らないですよ。

落合 そうですね。恵まれている人からどんどんやってもらいたい。ご両親との関わりはいかがでしたか？

山田 母は専業主婦でした。中学・高校の6年間は男子校で、男女の役割分担を当然のように思っていました。でも、大学生時代の女性の友人たちはわりと意識が高く、「結婚したら奥さんは家に入るんじゃないの」と話すとこてんぱんにやられました。

落合 いいお友達をお持ちで。

山田 それで僕も悔しくて。必死でジェンダー（社会的性差）関連の本を読んだ。そうしたら、「女性も男性も、その人なりの力・個性を活かす生き方が」って、実に当たり前のことが書いてある。それで、性別の役割分業意識がなくなっただのかもしれない。今はその友達に感謝しています。

落合 お連れ合いとの関係に変化はありましたか？

山田 いやー。夫婦仲は抜本的にはよくなりました。というのは、双子の育児を妻がしていた時には、口先だけで「大変

で協力くださった学生さんから

記念講演会は、区内の共立女子大学の学生さん 10 名にボランティアとしてご協力いただきました。講師との事前打合せや本の紹介文の作成、会場案内などに関わっていただいた感想を 3 人の方に聞きました。



大西絵理果さん

(大学 1 年)

まさか落合さんとの打合せに同行させていただいただけとは思いませんでした。自分が読んで感激する文章を書く人と直接話ができて、感謝しています。ボランティアに参加してよかった。今回は私たちの女子大が会場でしたが、女子大での男女共同参画をテーマにした講演会は、意味があると思いました。



葛西樹さん

(大学 3 年)

講演会のボランティアは初めてで、緊張しました。会場準備、講師接待、会場案内、受付など、さまざまな場で関わる人たちの連携が大切なのだと思いました。山田さんの子育てのお話は、自分たちの将来像を考える際に役立ち、たくさんの若い学生に聞いてほしいと思いました。



田中美起さん

(大学 2 年)

会場準備など間接的なボランティアかと思っていたけれど、講師との打合せに同行したり、講師の本を紹介するなど、学生が講演会の運営に関われる部分があったと思います。学生が書いた講師の本の紹介を読んで、若い人の感じ方を違う世代に伝えられたこともよかったし、同世代でも刺激になりました。

だね」とか「お疲れ様」と言っていました。それが、単なるエチケッ
トだった。それが、自分が一度、家事・育児の最終責任者としてやり抜くと、いかに大変かに気がついて。今でも妻には頭が上がりませんが、他人の立場に立つことがわかりました。
落合 お話を聞いていると、育児は介護ととても似ていると思います。育児の方は素敵な卒業をもらって、介護の卒業は悲しい別れではありますが。
山田 育児も介護もまさしく「頭のてっぺんからつま先まで受け入れる」ことだと思えます。私も落合さんの本を読ませていただいて、じょく瘡(床ずれ)ができないようにボ

ズを変えるところなど、育児と同じだと思いました。
落合 今までの体験の中で、女性に見えた景色を語ることも大事な時代がずっとあったけど、男性のこうした声はまだまだ少数派。その意味では、山田さんはパイオニアでしょう。
「共生」って、共感する力
山田 実際に子育てや介護の経験が全くない人たちはばかりで、国政の意思決定をしたら、すごく危なっかしいなあと思うことがあります。
落合 赤ちゃんや高齢者、いのちの原型のようなものに触れている日々を送っていたら、いのちを奪うものやいのちを

踏みこむものに対して嫌悪感があるはずですよ。それがちゃんと広がっていけば「アンチ戦争」。そして、自分だけが多く持てばいいじゃなくて、シェアしようとなる。
私もある意味で「男性並み」に働いてきちゃった。ワーク・ライフ・バランス的なところでは「おかしい」と思いながらも。でも母の介護に関わった時、否応なくもう少しゆっくりにしなきゃいけない、時間的にも、精神的にも、と。改めて、自分が生きること、他者を重ねること、そして働くことの意味の問い直しをせざるを得なかった。なぜなら、私が精神的に急ぎ足になって

いると、彼女も急ぎ足になるんです。だから、へゆっくりの時間を自分の中に受け入れること、待つことが大事だ、と。と同時に、「待たななし」があるのも育児であり介護。となると、この体験をすると、人ってずいぶん違ってくると思う場合があります。
山田 本当はそうですね。たとえば、育児や介護で仕事だけじゃない自分を持てると、他人の立場を理解することになる。結局「共生」っていうのは、僕は「共感する力」だと思います。自分しか見てない人は、共感なんてできっこないわけです。そういう意味でもワーク・ライフ・バランスと「共

感する力」、他人のことを認めることは不即不離のようなものではないでしょうか。
落合 そうですね。共感する力は想像力かもしれない。また、痛みに対してどれだけ立ち止まるかということでしょう。自分の痛みにも他者の痛みに対しても、共有する、あるいは引き受けていくという体験から、何を自分に引き寄せたかに意味があるだろうという気がします。
山田 底辺を流れるものは、いつも落合さんがおっしゃっている「誰の足も踏まないこと、同時に誰にも自分の足を踏ませないこと」という人権の大切さですね。

(文責：MIW)

記念事業の様子



家族で参加
しています

みんなで歩きます



出発～!!

暴力のない世界をアピールするパープルリボンのTシャツを身につけ、皇居の周りをラン&ウォーク



パープルリボン・プロジェクト ラン&ウォーク

RUN&WALK

かぞえよう!
ハピネス!



パープルリボンをモ
チーフにしたMIW
オリジナルTシャツ



ご協賛いただいた企業、団体
の皆様に感謝!



皇居の周りで色づいた木々に映える
パープル色のTシャツ



家族や友人と一緒に歩きました。ゴール直前、楽しそうな笑顔
がいっぱい

神保町応援隊

ザ・ボディショップ
ディジークラブ

くるす

NPO 法人エガリテ大手前

MIWで
仲間と
出会う夜

すずらの会

12の会

柿の実会

END
VIOLENCE

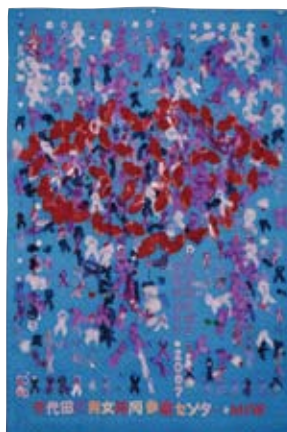
MIW 開設 10 周年
記念感謝祭
情報交流会・千夜一夜

MIW 開設 10 周年

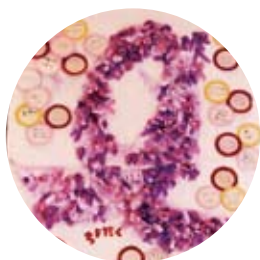


会場風景

2007 年の MIW のキルト



DV 被害女性の支援をする女性ネット Saya-Saya のキルト



パープルリボン キルト・フェスティバル

QUILT FESTIVAL

暴力のない世界をめざして&MIW10 年間の男尊女尊メッセージ展



長岡京市女性交流支援センターのキルト



中学生が作ったパープルリボンプロジェクトとくしまのキルト



10 年間の MIW の男尊女尊メッセージ



100 点以上寄せられた利用者からのキルトのピース



もりおか女性センターのキルトとメッセージ



(社) 東京建築士会
女性委員会
バリアフリー部会

ちよだ女性団体等連絡会

地域を結ぶ会

Smile 研究会

千代田母親連絡会

千代田区女性史サークル

セミコロソ

記念事業の内容



237 名の参加者からいただいた「暴力のない世界へのメッセージ」の一部をご紹介します。

意見や思いが平等に言えて、取り上げられる世界になりますように

暴力のない世界 = 幸福

平和な社会、おだやかな社会、気持ちの伝え方は、きれいな言葉で気持ちよく伝えていければいいなと思います

笑いの絶えない世界。皆でささえあえる世界

力づくが好きならボクシングとかで発散させましょう。叩かれると痛いんだよ

自由に発言することが素晴らしいと感じる世界

パープルのＴシャツがたくさん並んで走る姿は皇居に映えてきれいでした。こんなきれいな世界に暴力はあってはならないと思います

1 人でも暴力から逃れることのできる人が増えてゆきますように

世界が「パープルリボン色」に満ちている!!

みんながみんなをお互いに思いやることだと思います

豊かなコミュニケーションがある世界



パープルリボン・プロジェクト ラン&ウォーク

RUN&WALK

かぞえよう!
ハピネス!



日 時	2008 年 11 月 3 日 (祝) 9:15-12:00
会 場	千鳥ヶ淵公園からスタート&ゴールの皇居1周 (約 5km)
参加者数	計 237 名 (女性 157 名、男性 80 名)
内 容	暴力のない世界の重要性を訴えるために、参加者にオリジナルのパープルリボンＴシャツを身に付けてもらい、皇居を一周することで、暴力のない世界の大切さをアピールしました。走り、歩いた後には、おみくじのようにパープルリボンを結びつけ、さらに暴力のない世界へのメッセージを書いていただきました。

当日参加した M I W 登録団体の紹介

■ N P O 法人エガリテ大手前 男女共同参画の現状について調査・提言をしています。祖父の孫育ての「そふりえ」認定制度をつくりました。

■ E N D V I O L E N C E デートDV やいじめを未然に防ぐ活動を大学生や支援者とともに実践しています。

■ 柿の実会 家族や女性の問題を中心とした読書会や研究発表。メンバーの大学時代のゼミから20年以上続いている会です。

■ くくるす 男女が対等な意識をもち、自分の思いを伝えられる話し方や聞き方について学びます。

■ ザ・ボディショップ デジークラブ ハンドマッサージ等を通して、DVのない社会を目指す活動をしています。

■ 12 の会 M I W のグループワークから生まれた団体。互いの悩みを安心な場で話せる仲間たちの集まりです。

■ 神保町応援隊 ワーク・ライフ・バランスを目指す人たちが集まり、神保町の地域情報を発信、共生社会を考えます。

■ すずらの会 言葉や態度によるモラルハラスメントについて学び、被害に苦しむ人の相談や支援をしています。

■ S m i l e 研究会 よりよいコミュニケーションのためにコーチングの考え

MIWで仲間と出会う夜

MIW 開設 10 周年
記念感謝祭
情報交流会・千夜一夜

MIW 開設 10 周年

MIW では、利用者の方々に、紫色の短いリボンをねじって、中央をホチキスでとめてもらい、集まったリボンを布に縫いつけキルトに仕上げてきました。3年間で5000個以上のパープルリボンが集まり、6枚のキルトができました。

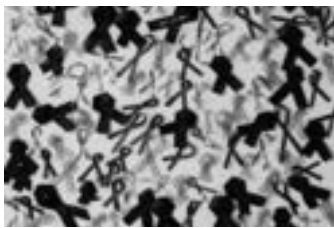
この取り組みを多くの方に知っていただこうと、今回、開設10周年を記念して、「パープルリボンキルト・フェスティバル」を開催しました。多様な形で制作されたパープルリボンキルトや

パープルリボンメッセージを全国の男女共同参画センターや民間のDV被害者支援団体、岡山県の高校から借用して展示しました。また、一般の方からお寄せいただいたパープルリボンをモチーフにしたキルト作品も100点以上展示しました。

会場では、10年間のMIWの歩みと講師や協力者からいただいた「男尊女尊メッセージ」も飾り、多くの方々に見ていただきました。



パープルリボン キルト・フェスティバル QUILT FESTIVAL



日 時	2008年9月27日(土)～10月3日(金)
会 場	千代田区役所1階区民ホール
来場者数	計712名(女性479名、男性233名)
内 容	MIWでは、「パープルリボン・プロジェクト」を2005年から続けています。パープルリボンはDV(親密な間柄での暴力や虐待)など、あらゆる暴力をなくし、誰もが大切に尊重される社会をめざすメッセージリボンです。

■パープルリボンキルト・メッセージ出展協力

大田区立男女平等推進センター エセナおおた
甲賀・湘南人権センター
女性グループ・すいーぷ
女性ネット Saya-Saya
ストップDV・サポートの会
長岡京市女性交流支援センター
パープルリボンプロジェクトとくしま
もりおか女性センター
岡山県立東岡山工業高等学校
岡山県立岡山御津高等学校
岡山県立邑久高等学校

(敬称略・順不同)

日 時	2008年11月14日(金)18:30-20:30
会 場	千代田区男女共同参画センター MIW 交流サロン
参加者数	計25名(登録団体(15団体)23名、一般1名、MIW運営協議会委員1名)
内 容	これまでMIWを支えてくださった方々に感謝の気持ちをこめて交流会を開きました。日頃からMIWをご利用いただいている登録団体の皆様の活動紹介を通して、グループ同士が顔を合わせながら楽しく交流しました。

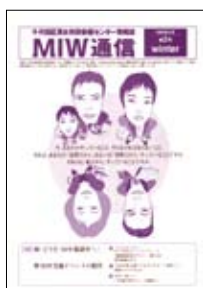
方とスキルを学び、子育てに活かします。
■セミナー 美術が大好きな仲間が集まり、ジェンダーの視点から絵を学びながら交流しています。
■地域を結ぶ会 地域の人たちとともに高齢者とのふれあいの場作り、配食サービスなどを行っています。
■千代田区女性史サークル 千代田区内で活動した女性たちの歴史を聞き書きし、研究誌にまとめています。
■ちよだ女性団体等連絡会 男女共同参画社会をめざし、さまざまな研修会やボランティア活動を実践しています。
■千代田母親連絡会 平和や食べ物の安全、働く女性の問題などを一緒に話し合い、学び合つ会です。
■(社)東京建築士会女性委員会バリアフリー部会 女性建築士の立場から、誰もが暮らしやすい生活環境についての調査やワークショップをしています。

『MIW通信』の10年をまとめます

1998年10月にMIWが開設して以来、発行したセンターの情報誌『MIW通信』は24号を数えます。10周年を記念して、創刊号からの合本を制作します。3月末にはMIWの情報ライブラリでご覧いただけます。ご期待ください。



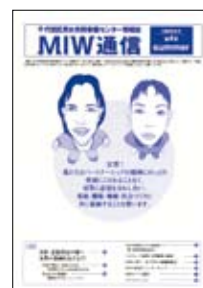
MIW 通信創刊号



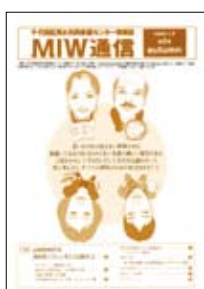
MIW 通信 2 号



MIW 通信 3 号



MIW 通信 4 号



MIW 通信 5 号



MIW 通信 6 号



MIW 通信 7 号



MIW 通信 8 号



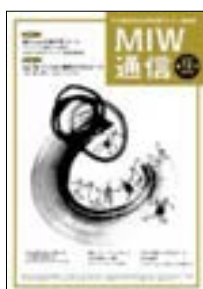
MIW 通信 9 号



MIW 通信 10 号



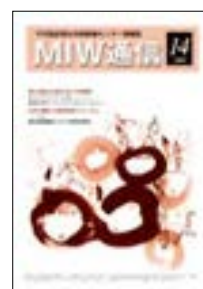
MIW 通信 11 号



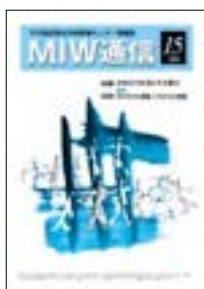
MIW 通信 12 号



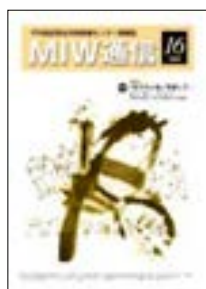
MIW 通信 13 号



MIW 通信 14 号



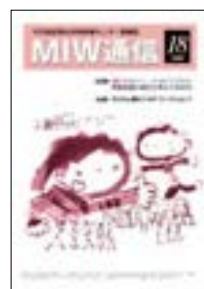
MIW 通信 15 号



MIW 通信 16 号



MIW 通信 17 号



MIW 通信 18 号



MIW 通信 19 号



MIW 通信 20 号



MIW 通信 21 号



MIW 通信 22 号



MIW 通信 23 号



MIW 通信 24 号

お気に入りの場所で、昔・・・

妊婦の緊急受け入れ拒否などに揺れる現在の産科病院。かつて、千代田区の飯田橋駅前には日本産婆会がありました。設立は昭和2年。飯田橋にあった日本の出産を支えてきた助産師の歴史をたどります。



昭和2年に設立した日本産婆会の建物。飯田橋駅前の今の富士見町の教会のところにありました

その8 地域で産んで育てる 命のつながりを支えた助産師の歩み

出産の時、母親と子ども2人の命を預かる助産師。江戸時代は坐婆^{ざば}、その後は「お産婆さん」と呼ばれ、出産だけでなく、産前産後に妊婦・新米母親の相談相手として、なくてはならない存在でした。明治9年に東京府産婆教授所が設立。その後、全国各地に産婆組合ができ始め、昭和2年に、日本産婆会が飯田橋に設立しました。日本で初めての産婆の職能団体でした。その当時の会員が5万人。現在の2万7000人の倍近い数でした。

産婆は、お産があると、「機械」：浣腸器やメス、へその緒を切るはさみなどを入れた箱をもって出かけました。学校で新しい産婆学を修めた女性たちは、西洋産婆と呼ばれ、高く評価され

ていたのです。

昭和初期の頃、商家の多い下町では、無事出産すると、お礼として産婆に、白米1升と本鯉節の背と腹2本が届けられました。当時、内風呂のある家庭は珍しく、お七夜には黒紋付を着た産婆が晴れ着に包まれた赤児を抱き、街の人から祝福を受けながら銭湯に向かう姿が見られました。出産だけでなく、1か月以上も沐浴を依頼されたのです。

さらに、産婆は、経済的にも自立した存在で、「助産婦は昔風の男尊女卑の既成観念をもたずに、女性解放の思想を黙々と実践した先駆的な女性たち」でもありました。

現在の出産はほとんどが病院です

が、助産師とともに家族と一緒にあって経験する家庭分娩の良さを知ってほしいと、現在の日本助産師会の加藤尚美専務理事は話します。「出産を一緒に体験した夫や子どもは、不思議なことにやさしくなるんですよ。出産の大変さを知り、命の誕生に感動するからでしょうね。男性の子育て参加は妊娠・出産から始まっているんです」

出産を担っているのは病院や産婦人科の医者、助産師だけではありません。そこでの主人公は産む女性たち、産まれる子どもたち…。「女性たちがお産を通して、自分の体を知って、自分の生き方を自分で選択してほしいですね」と加藤さんは話されました。



日本産婆会初代会長の柘植アイさん



昭和初期の頃 取り上げた子どもと



平成20年3月まで区内の富士見地区にあった八千代助産院



富士見地区にあった助産婦学校の実習室で

昭和初期の頃 産湯をつかう風景 各地で助産院が開かれていました

MIW イベント紹介

メディアリテラシー講座「情報ダイエット仕事術」

講師：堀 E. 正岳（ほり エディ. まさたけ）さん
（Lifehacking.jp 管理人）

第1回 2月13日（金）「入門編」

第2回 2月27日（金）「解決編+交流会」

時間はいずれも 18:30-20:30

ワーク・ライフ・バランスを考えて情報を取捨選択する視点を持ち、情報を整理することを学びました。氾濫する情報社会の今、自分と情報の関係を見直す講座が男女ともに好評でした。



メディアリテラシー講座風景



千夜一夜のゲストの連連影展の皆さん



ゲストが制作した映画の一部も上映しました

MIW 情報交流会・千夜一夜【第63夜】

「自分の町で手作り映画祭 —— 見て、感じて、話して、ネットワーク」

2月4日（水）18:30～20:30

ゲスト：FAV（フェミニスト・アクティブドキュメンタリー・ビデオフェスタ）連連影展のメンバー

自分の町で自分の見たい映画を撮って、上映する…撮るものと撮られるもの、見るものと見られるものの関係を楽しく変えていく新しい試みについて、話していただきました。

MIW 相談室

MIW の相談室では、夫婦関係、男女の生き方・働き方、セクシュアル・ハラスメントや夫婦や親密な間柄での暴力などについて相談を受けています。相談は面接でも電話でも可。予約制になっています。
（区内在住、在勤、在学の方対象）

◆電話での予約

TEL 03-5211-4316

（女性カウンセラーが担当します）

◆相談日時

水曜日

第1・3・5 / 10:30～15:30

第2・4 / 17:00～21:00

木曜日

第1・3・5 / 17:00～21:00

第2・4 / 10:30～15:30

金曜日

第1・3・5 / 10:30～15:30

第2・4 / 17:00～21:00

MIW インフォメーション

MIW 情報交流会・千夜一夜【第64夜】

3月11日（水）18:30～20:30

「思いっきり介護しゃべり場」

第1部 高齢介護課に聞く「この制度 こう使う」

第2部 グループに分かれて、思いっきり「しゃべり場」

企画・進行 MIW運営協議会委員

あなたの「悔」護、思い切って「改」護してみませんか。「快」護のヒントについて、介護する人・される人・これからの人、みんなでワイワイ考えましょう。

千代田区男女共同参画センター MIW (ミュウ)

◆所在地：〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1

千代田区役所10階

◆交通機関：東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車、徒歩5分

◆開館時間：月曜日～金曜日 午前9時～午後9時
土曜日 午前9時～午後5時

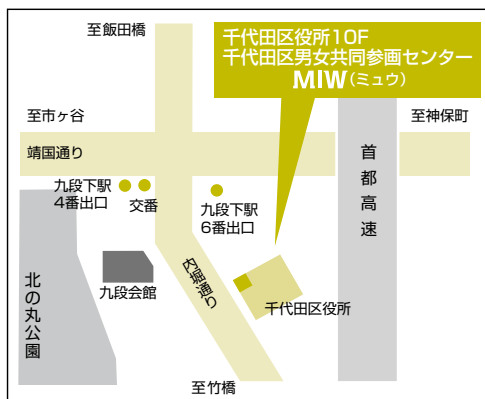
◆休館日：日曜日、祝日、年末年始

◆TEL：03-5211-8845 / 相談予約受付 03-5211-4316

◆FAX：03-5211-8846

◆E-mail：miw@city.chiyoda.tokyo.jp

◆URL：http://www.city.chiyoda.lg.jp
（MIWで検索してください）



●編集後記

MIW 10周年記念事業号はいかがでしたか？ 多くの方々のご協力により、思い出深い事業が展開できました。これからも工夫をこらし、より分かりやすく男女共同参画社会実現の重要性を伝えていけるようスタッフ一丸となって努めていきます。次の10年に向けてご指導・ご協力をよろしくお願いします。（M）

編集：千代田区男女共同参画センター
（株）生活構造研究所
発行：千代田区 デザイン：スタジオオサラ
印刷：（株）教文堂
発行日：2009年2月28日